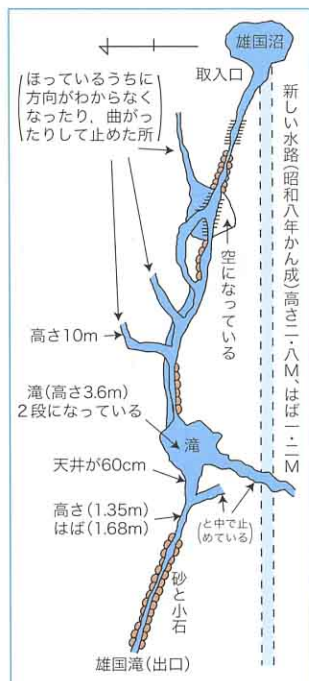


## ① どう門の様子



## 工事の様子

しかし、工事は大変<sup>こん</sup>困<sup>ん</sup>んなものでした。  
もっと<sup>も</sup>むずか<sup>か</sup>しかったのは、どう門(約350m)をほる工事でした。工事の場所が地区から遠くはなれ、土地の高さも1000m以上あり、不便<sup>ふべん</sup>なうえに寒<sup>さむ</sup>さもきびしかったことが大きな原因<sup>げんいん</sup>でした。

左の図はどう門の中の様子を表したものです。と中でどう門がと切れているところがあります。かたい岩のため、ほるのが難しかったり、両側<sup>りょうがわ</sup>からほり進んだ時に、穴が合わずに、ほるのをと中で止めてしまったのです。

また、ほってきた土地の高さが合わず滝のようになってしまったところもあります。

工事の道具もくわやもっこ、のみなど手作業<sup>てさぎょう</sup>によるものでした。また、半分に割った竹に水を入れたり、提灯<sup>ちようちん</sup>を並べたりして土地のかたむきや曲がりぐあい<sup>ま</sup>を調べたりしました。

そのため、半年の工事の予定<sup>よてい</sup>が3年もかかってしまいました。のべ7000人もの人が働いたと言われています。きびしい工事のため、病気になる<sup>な</sup>ったりする者も出てきました。

工事のお金もなくなり、藩<sup>はん</sup>からたくさんのお金を借りて最後まで工事を続け、やっとの思いで、1663年に用水路を完成しました。

## ② どう門の工事の様子

